

福祉事業に「共助」の支援
若い人の力を そのⅡ

亀山地区社会福祉協議会

会長 大島 正彦

平素は、亀山地区社会福祉協議会（亀山地区社協）の活動に対しましてご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

「新型コロナウイルス感染症拡大」は、未だに終息の目途がたたない状態で、私達の厳しい生活環境は依然として続いております。

この様な環境の中で、私は、先日の昼下がり、3歳位の女の子が若いお父さんと手をつなぎ、お父さんの顔を嬉しそうに見つめ、歩きながら話しているのを見ました。また違う日には、私の掛かり付けの内科で高齢の父親を娘さんと思われる女性が、まず、親の座る場所を確保し、待合室の皆さんに、気配りの挨拶をし、それから受付の手续されていまして。この、2つの出会いは「親子の愛情の表れ」であり、私は嬉しく、楽しい気分になりました。

少子高齢化、人口減少が進む現在、最近子どもに対しての虐待、育児放棄等による痛ましい事件が発生しております。高齢者も、老々介護の疲れによる事件、虐待が発生しております。これらの事を思った時、亀山地域においては、どうであろうか、従来からの活動だけで十分か、いまこそ、若い人の考え方、若い人の積極的な行動力が必要ではないかと考えました。

亀山地域においては、皆さまの暮らしの中に、亀山地区社協と亀山学区自治会町内会連絡協議会（亀山学区自治連）が、地域福祉の両輪となって、地域の「共助」の協力を行いながら「オ

ール亀山」として、見守り活動を進めております。亀山地区社協は、学区内約18諸団体との連携を図りながら、住民同士の協力を重点に、地区における福祉に関する課題の解決に向けての活動を推進しております。亀山学区自治連では15自治会町内会が住民と直接に活動に関わりを持ち、住民同士の繋がりを密に保ち、防犯活動・自主防災活動を担いながら「安全で、安心して住めるまち」を推進しております。この2つの組織は地域にとって「宝物」です。

亀山地区社協は、近年住民の皆さまの要望による「よろず何でも相談室」を開設し、活動に力を入れております。相談活動の基本は、少子高齢化が急速に進んでいる現状から①高齢者及び介護の必要者への見守り活動支援②子育て育児支援活動支援③その他若い人を含む住民の皆さまの福祉に関する支援など。地域の皆さまの実情に合った相談です。

相談開設日は、亀山7丁日本部事務所が火・木曜日。亀山3丁目社協かめやま分室が月・水曜日で、皆さまの相談に対応しております。どんな事でも、立ち話の気持ちで、お気軽にご来室下さい。お待ちしております。

また、広島市では地域に関わるあらゆる団体が一緒になり、地域の実情に応じた諸課題（元気になる活動）を解決できる地域コミュニティ活動に、50万円の助成金を支給しております。地区社協が中心となって推進しますが、「若い人」のアイデアを取り入れたものにしたいと考えております。

「出来る事から 小さな福祉を 亀山の地から」

この事を実現させるためにも、若い人の力を取り入れた「オール亀山」活動を実践したいと思っております。亀山地区の皆さまのご支援ご協力ご指導をよろしくお願いいたします。

白寿、米寿お喜び申し上げます

白寿5名、米寿57名。皆様にお祝いを贈りました。(令和4年9月19日現在)

白寿 (大正12年生まれ)

上平	ハルエ	可部町綾ヶ谷	綾西連合
道下	チエコ	亀山西1丁目	勝木台
森澤	フジエ	亀山6丁目	上大毛寺
込山	定	亀山5丁目	船山
宮田	ヨシコ	亀山西2丁目	勝木台

米寿 (昭和9年生まれ)

横山	成男	可部町勝木	上行森
濱本	春行	可部町勝木	下行森
岡本	賢夫	可部町勝木	下行森
小野川	一二	可部町勝木	グリーンライフ
吉田	雪枝	可部町勝木	グリーンライフ
杉田	時子	可部町勝木	グリーンライフ
下山	元則	可部町勝木	グリーンライフ
山井	昌雄	可部町勝木	グリーンライフ
平川	富美子	可部町勝木	グリーンライフ
津留	光子	可部町勝木	グリーンライフ
安達	秀雄	可部町勝木	グリーンライフ
鉄増	純子	可部町勝木	グリーンライフ
野間	進光	可部町勝木	グリーンライフ
木原	悦子	可部町勝木	グリーンライフ
山崎	貞子	可部町勝木	勝木ハイツ
森島	絹子	可部町勝木	勝木ハイツ
久代	一昭	可部町勝木	勝木ハイツ
大下	洋子	可部町綾ヶ谷	綾西連合
尾崎	政子	可部町綾ヶ谷	綾西連合
吉川	富士男	可部町綾ヶ谷	綾西連合
平田	幹夫	可部町綾ヶ谷	綾西連合
白濱	和子	亀山西2丁目	勝木台
本田	綏子	亀山西2丁目	勝木台
松下	昌子	亀山8丁目	勝木

前田	幸恒	亀山9丁目	勝木
岩山	勝子	亀山8丁目	上大毛寺
菅原	源三	亀山7丁目	上大毛寺
川本	百合子	亀山7丁目	上大毛寺
武枝	初五郎	亀山7丁目	上大毛寺
藤井	一子	亀山7丁目	上大毛寺
阿部	安次	亀山6丁目	上大毛寺
石原	郁子	亀山6丁目	上大毛寺
富永	花子	亀山6丁目	上大毛寺
日之迫	美代子	亀山6丁目	上大毛寺
三浦	ヒデコ	亀山6丁目	上大毛寺
平岡	利之	亀山4丁目	中大毛寺
清田	啓資	亀山5丁目	中大毛寺
瀬戸	正之	亀山5丁目	中大毛寺
鈴木	八千代	亀山6丁目	中大毛寺
増田	富士子	亀山6丁目	中大毛寺
松本	和美	亀山6丁目	中大毛寺
村田	ナヲ子	亀山6丁目	中大毛寺
竹下	勝夫	亀山4丁目	下大毛寺
伴田	登美子	亀山4丁目	下大毛寺
中川	律子	亀山4丁目	下大毛寺
三上	知昭	亀山5丁目	船山
竹内	弘	亀山5丁目	船山
清水	俊夫	亀山5丁目	船山
後藤	弘美	亀山5丁目	船山
林	登美子	亀山5丁目	船山
埜本	繁行	亀山5丁目	船山
土肥	明喜子	亀山5丁目	船山
泉	佳子	亀山5丁目	船山
黒田	順子	亀山5丁目	船山
新宅	潔子	亀山3丁目	四日市
鬼塚	洋子	亀山3丁目	福原

(敬称略 順不同)



事業部はこんな活動を しております

亀山地区社会福祉協議会 事業部
部長 小坂 昭義

各種事業の企画運営を主幹とした支援活動を他の部と一緒に17名の部員で活動しています。担当事業はひとり暮らしのお花見会、食中毒予防講習会、敬老事業、ひとり・ふたり暮らしの懇親会、ひとり暮らしの日帰りバス旅行、男の料理教室、福祉バザー、赤い羽根共同募金、亀山学区献血実施等ですが2020年2月に新型コロナウイルス感染拡大が世界中でパニックとなり、3年続いてほとんどの事業が中止せざるを得なくなるなかで、献血、赤い羽根共同募金は毎年継続して行っています。部員メンバーの平均年齢は約75歳(それ以上という声も有りますが気力で頑張っております)他の部と同様、新規の部員はほとんどありません。急激に変化する労働環境の中では仕方ないのかもしれませんが。

令和2年度に広島市が「町内会・自治会等の実態調査」と称した大規模な調査を行いました。既存の町内会や住民に対して様々な項目を質問し大変興味深い結果が出ています。インターネットの検索サイト「広島市 町内会 調査」等のキーワードで検索するとどなたでもこの調査結果を閲覧できますのでぜひ一度ご覧ください。

その中の一つに町内会の加入率の変化があります。広島市の町内会加入率の平均は1982年からの86%から2020年の54%と約40年間で30%低下している事が分かります。この大幅な低下の背景には少子高齢化や人口減をはじめ人々の働き方の変化、核家族化や一人暮らしの増加など様々なことが影響していると思われます。このように要因は多様ですが価値観も含めて急激に変化している社会のなかで、既存の地縁組織やボランティア組織なども後継者人材不足に悩んでいるとの声をよく聴きます。

地縁組織や地域組織等の活動は私たちひとり

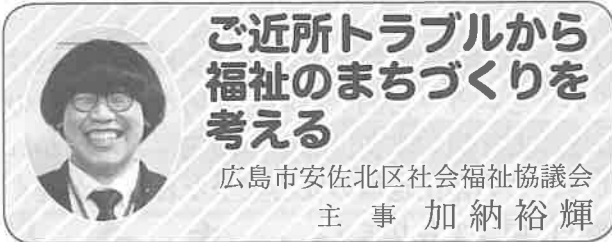
ひとりが地域の維持、安心安全な暮らしを続けていくという「目的」ための大切な「手段」のひとつだと思います。今まで諸先輩方が築かれてきたこの亀山地域の安心安全な暮らしが続くように願っております。

そのような中で10月1日(土)にアルゾ可部店で献血を実施しました。10月でも真夏のような日差しの強い1日でした。献血に来られる方の年齢が数年前より高くなり(献血可能な年齢18歳~69歳)該当する方が少なくなり今回の献血の結果は、受付総数66名、採血者数60名、6名の方が比重不足などで採血できませんでした。採血合計は24,000mlでした。貴重な善意の献血有難うございました。来年も献血を実施しますので一人でも多くの方にご協力をお願いいたします。

年末には赤い羽根共同募金が始まります。地域の福祉事業の資金にもなりますのでご協力をお願いいたします。

事業部メンバー

役職	氏名	地区
部長	小坂 昭義	上大毛寺
副部長	太田 密	上行 森
副部長	大田 哲生	勝 木
部員	花本 豊	上行 森
部員	大下 等	下行 森
部員	渡 義治	グリーンライフ
部員	油目 忠之	綾西 連合
部員	藤井 房光	勝 木 台
部員	千蔵 早苗	勝 木 台
部員	森脇 真由美	船 山
部員	増本 昭義	船 山
部員	濱田 和江	上大毛寺
部員	佐々木 和子	中大毛寺
部員	二見 豪蔵	四日市
部員	上杉 正浩	福 原
部員	吉村 昭彦	下大毛寺
部員	仲信 健治	下大毛寺



ご近所トラブルから 福祉のまちづくりを 考える

広島市安佐北区社会福祉協議会
主事 加納裕輝

今回は、ご近所トラブル（ゴミ屋敷）の事例から福祉のまちづくりに向けた視点について考えてみたいと思います。

1 多くの地域で問題となっているゴミ屋敷

ゴミ屋敷はご近所トラブルのあるある事例だと思います。区社会福祉協議会（以下「区社協」）でも地域の方から「困った人」がおるけん何とかしてほしい」といった相談をきっかけとして支援に入ることがあります。最近あった事例では、介護保険等のサービス利用がない単身高齢世帯のAさんは、足腰が悪くなり徐々に寝たきり状態となり、ゴミ屋敷の“困った人”Aさんとなりました。Aさんは、足腰が悪くなる前は町内会に加入し、地域のお祭りや行事にも参加されていました。しかし、現在は、町内会を脱退しており、Aさんも近隣住民をうるさい人と言って関係を持たないようになっていました。

2 「排除」と「共生」は表裏一体

まず大切な視点は、本人さんから見える主観的な世界にも配慮することが必要であるという点です。

この事例では、最初から“困った人”として地域関係が悪かったわけではありませんでした。本人さんの寝たきり状態をきっかけとして、地域行事に参加できなくなり、ゴミが溜まって徐々にゴミ屋敷となっていきました。恐らくその過程では、本人と近隣住民との間にストレスを感じるコミュニケーションがあり、結果として“ゴミ屋敷のAさん（困った人）”としての現状がつくられてきたのだと思います。つまり、Aさんからすると町内会を脱退し、元々あった関係を断ち切るそれなりの理由があったのではないかと考えられるわけです。

このように、地域社会での関係は流動的です。ちょっとしたきっかけで、良好な関係からお互いを排除する関係に替わる局面があるのです。

3 お互いを生かす落としどころに向かって

“困った人”は同時に“困っている人”の場合がほとんどです。本人さんの困りごとの解決に向けて協働する関係が大切です。また、誰が悪いのかといった考え方では、お互いがお互いを排除するような行動でしか解決の方向性が見えてこないため、不適切な“関係や状況”に焦点を当てることが重要です。

本人さんの困っている部分やトラブルの原因については専門職等と協力しながら対応していくこと。同時に、本人さんと近隣住民相互にとってストレスの少ない関係を考えて行く必要があります。

昔あった良好な関係には戻れないけれども、新たな「共存・共生」の関係に向かうプロセスを創造していくことが必要ということです。

4 福祉のまちづくりに向けて

孤立や孤独、排除する関係からは“誰もが安心して暮らし続けたい地域”は生まれません。なぜなら、いつ自分が排除される側になるのか恐れながら生活することになるからです。共に生きる関係こそが唯一私たち自身を生かすことができ、互いの違いや思い、ありのままの姿を尊重しあう関係があるからこそ、福祉のまちづくりを創造していくことができるのです。

地域福祉事業にご寄付

亀山社協に令和4年6月1日から9月30日までの間、次の皆様から貴重なご寄付を頂きました。

謹んでお礼申し上げます。

◎香典返し

勝 木 角川アサ子様（夫・博巳様）

上大毛寺 菅原八重子様（夫・源三様）

◎一般寄付

勝 木 岡崎晶子様

上大毛寺 山岡敏幸様の奥様

お 願 い

香典、お見舞い、お祝いのお返し等を亀山地区社協へご寄付の程お願い申し上げます。

窓口は自治会長、町内会長、民生委員、社協役員です。